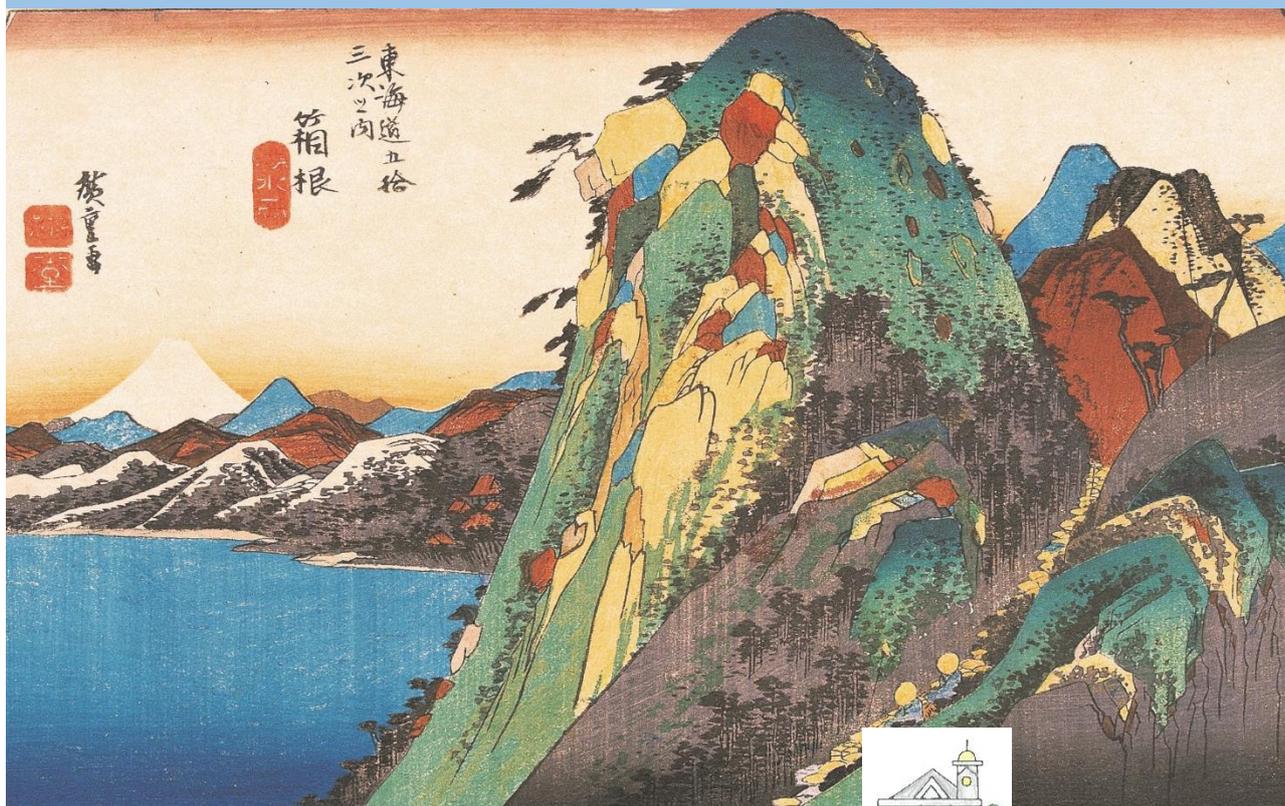


広重展

— 天才浮世絵師が描く日本名所紀行 —



丹波市立植野記念美術館

東海道五拾三次之内



箱根 図」(図版 NO. 11)

2021 年

月

日

なまえ

うきよえ 浮世絵ってどんな絵??



うたがわひろしげ
歌川広重によって描かれた「東海道五拾三次」は、うきよえはんが
浮世絵版画でできてい
ます。それは1枚1枚手で描くのではなく、木版画ですっている版画です。

浮世絵ができるまで

木版画の浮世絵は、版元（はんもと）、絵師（えし）、彫師（ほりし）、摺師（すりし）が、次のような仕事を手分けして行なっていたんだ！

【版元】 絵の題材を決めて、絵師にお願いします。
また、完成した絵を販売します。

【絵師】 木版のための下絵を描きます。
広重は、ここを担当していました。

【彫師】 下絵をもとに版木を彫ります。版木は、色の数だけ作ります。
また、彫師には、顔や髪が生え際を彫る者、体や着物などを彫る者、文字を彫る者がいました。

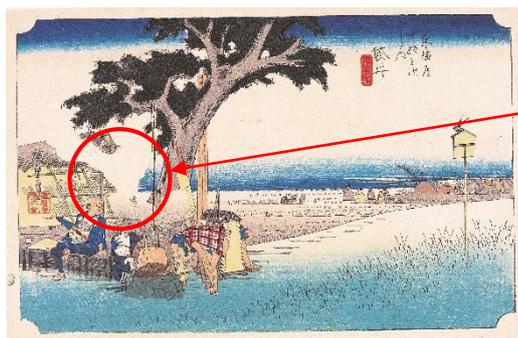
【摺師】 版木に絵の具をつけて和紙に写し取ります。
何色も使うときは、この作業を繰り返して色を重ねていきます。
作品の中には、「空摺（からずり）」や「ぼかし」といった浮世絵独特の技法を使って摺っているものがあります。



「空摺(からずり)」や「ぼかし」をさがしてみよう！

「空摺（からずり）」

版木に絵の具を塗らないで紙面に凹凸模様を作り出す技法です。



展示室1（図版No.28）の「煙」

ここをよくみてね！
横から見るとわかるよ！



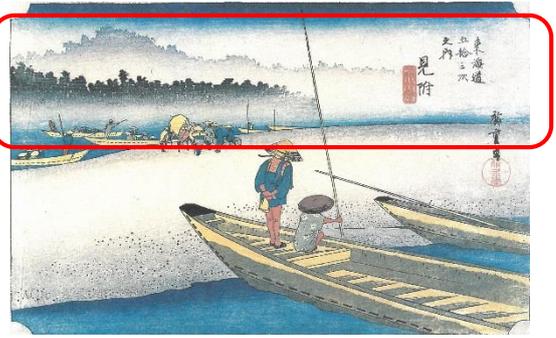
展示室2（図版No.98）の「着物のえり」



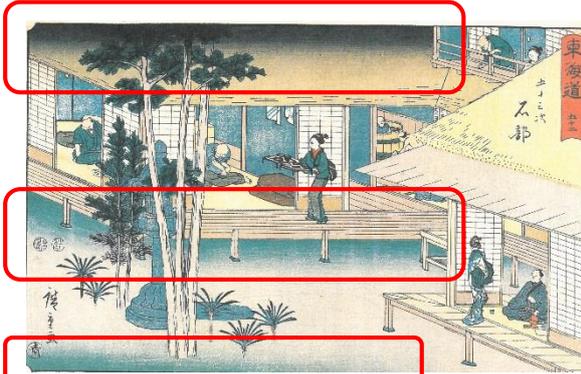
□ のところが、ぼかしだよ！
ぼかにもたくさんあるので、
さがしてね！

「ぼかし」

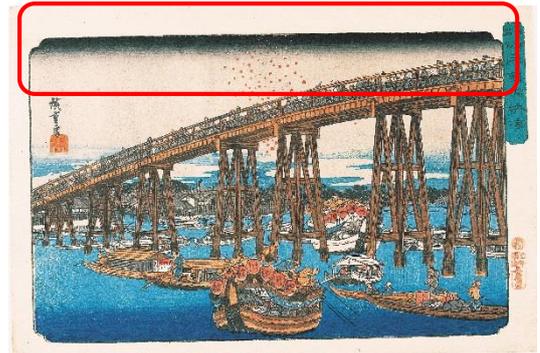
版面をぬらして、その上にハケで
絵の具をつけてぼかす技法です。



展示室 1 (図版No.29) の「川辺の大気」



展示室 3 (図版No.73) の「屋根・庭」



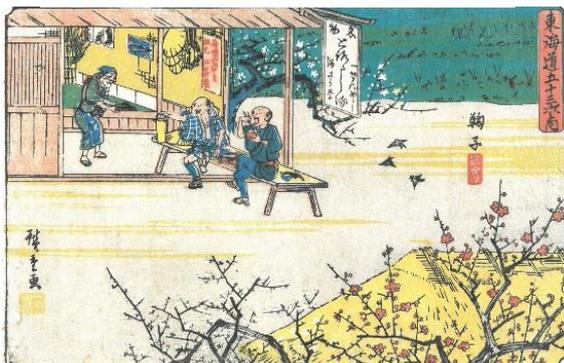
展示室 4 (図版No.138) の「空」

しゆくばまち 旅人の姿や宿場町の様子を見てみよう！



宿場は、街道の拠点となったところなんだ。
宿場には、「うまや（馬の飼育小屋）」、「食事処」、「はたご（宿泊施設）」
などが出来たことで、宿場町として発展したんだよ。
宿場町には、旅人のお土産となる名産品があったんだ。

食事処の名物「とろろ汁」



「東海道五十三次之内 鞠子」(図版No.58)

はたごの客引き！



「東海道五拾三次之内 御油 旅人留女」(図版No.36)

東海道五十三次ってなに??

重要な街道「東海道」

東海道は、江戸と京都をつなぐ最もよく使われた街道です。

その距離は約500キロメートルあり、江戸時代の人々は、2週間くらいかけて、歩いて旅をしていました。

江戸幕府は、旅行者のためにその重要な道である東海道を整備しました。



「東海道五十三次之内 四十九坂の下」(図版No.72)



「東海道五拾三次之内 藤枝人馬継立」(図版No.23)

53回の継ぎ替えて「五十三次」??

東海道には江戸から京都までの間に53の宿場があったんだ。江戸から京都まで物を運ぶとき、前の宿場から運ばれてきた荷物は、次の宿場で送り継ぎ、53回の継ぎ替えをしなければならなかったんだよ。そのため「五十三次」と呼ばれるようになったんだ。



【特別展示室】こんなに違うの? 「鬼の架け橋」(図版No.11)

広重は、「六十余州名所図会(ろくじゅうよしゅうめいしよすえ)」の中で、丹波市柏原町の「鐘ヶ坂」や「鬼の架け橋」を描いています。

でもこの絵は、鬼の架け橋が大きく描かれていて、写真とくらべるとぜんぜん違って、見えるね!
広重は、名所の景色などの特色を強調するために想像して描いているところがあるんだよ!



「鬼の架け橋」(2020.10 撮影)



「六十余州名所図会 丹波 鐘坂」